

令和元年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

障害者支援課

1 施設の概要等

施設名	広島県立視覚障害者情報センター		
所在地	広島市東区戸坂千足二丁目1-5		
設置目的	無料又は低額な料金で、点字刊行物及び視覚障害者用の録音物を視覚障害者の利用に供する。		
施設・設備	閲覧室、録音室、点字作業室、発送室、対面朗読室、書庫、会議室、相談室、事務室		
指定管理者	4期目	H28.4.1～R3.3.31	(社福) 広島県視覚障害者団体連合会
	3期目	H23.4.1～H28.3.31	(社福) 広島県視覚障害者団体連合会
	2期目	H20.4.1～H23.3.31	(社福) 広島県視覚障害者団体連合会
	1期目	H17.4.1～H20.3.31	(社福) 広島県視覚障害者団体連合会

2 施設利用状況

利用状況	年度	目標値 [事業計画]	貸出図書数 (タイトル数、雑誌除く。)	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	4期	R2	—	—	—
R1		—	22,259件	△369件	—
H30		—	22,628件	△75件	—
H29		—	22,703件	2,616件	—
H28		—	20,087件	△322件	—
3期平均 H23～H27		—	20,409件	1,983件	—
2期平均 H20～H22		—	18,426件	4,712件	—
1期平均 H17～H19		—	13,714件	1,308件	—
H16 (導入前)		—	12,406件	—	—
増減理由	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、館内作業ボランティアの活動や、他館からの相互貸借に制限が生じたため。</p> <p>○ サピエ図書館のシステムメンテナンスが計12日間行われたため。</p>				

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	各種行事において施設利用者と意見交換を行い、利用者ニーズを把握	副音声付映画体験会 (年5回) 40名、交流会 44名、ピラティス体験会 (年8回) 168名、施設利用視覚障害者団体 39名等
	【主な意見】	【その対応状況】
	参加しやすい行事、イベントを希望	副音声付映画体験会、交流会に加え、健康づくりと利用者同士の交流を目的に、今年度より新たに「ピラティスレッスン」を企画・開催した。
最新の視覚障害者向けIT・支援機器情報を希望	関係機関等から最新情報を収集し、センター広報誌等で情報発信するとともに、関連図書の紹介を行った。	
地域に密着した情報の提供を希望	視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」を活用し、積極的に地域・生活情報を発信した(情報提供数 734件、閲覧数延べ7,223件)。 独自に地域情報を編集した月刊発行の「ひろてんナビ」(点字版、録音版)で、幅広い情報を提供した。	

4 県の業務点検等の状況

項目		実績	備考
報告書	年度	○	事業報告書, 収支決算書
	月報	○	業務実績報告書
	日報 (必要随時)	○	施設・設備の不具合等の報告
管理運営会議 (毎月開催)	【特記事項等】 ・会議を月報提出時 (12回) に開催 ・現地調査は随時実施 【指定管理者の意見】 ・業務仕様書に基づき管理運営を行った。 【県の対応】 ・一部に会計処理上の誤り等があったものの, 概ね適切に管理運営が実施されていることを確認した。		
現地調査 (随時実施)			

5 県委託料の状況

(単位: 千円)

	年度		金額		対前年度増減	
	年度	金額	対前年度増減	年度	金額	対前年度増減
県委託料 (決算額)	4期	R2	—	—	料金 収入 (決算額)	該当なし
		R1	32,444	380		
		H30	32,064	45		
		H29	32,019	186		
		H28	31,833	2,439		
	3期平均 H23~H27	29,394	51			
	2期平均 H20~H22	29,343	△15			
	1期平均 H17~H19	29,358	△1,533			
H16 (導入前)	30,891	—				

6 管理経費の状況

(単位: 千円)

項目		R1 決算額	H30 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	32,444	32,064	380	
		料金収入	0	0	0	
		その他収入	0	0	0	
		計(A)	32,444	32,064	380	
	支出	人件費	23,339	24,393	△1,054	人員変更による職員給与等の減
		光熱水費	1,885	2,210	△325	電気料金の減
		設備等保守点検費	1,032	1,027	5	
		清掃・警備費等	1,150	1,134	16	
		施設維持修繕費	339	133	206	エアコン・録音図書再生機・非常誘導灯修理等による増
		事務局費	4,699	3,167	1,532	印刷機の新規リースによる増, 消耗品等の増
その他		0	0	0		
計(B)	32,444	32,064	380			
収支①(A-B)	0	0	0			
自主事業 (※)	収入(C)	—	—	—		
	支出(D)	—	—	—		
	収支②(C-D)	—	—	—		
合計収支(①+②)		0	0	0		

※ 自主事業: 指定管理者が自らの責任で, 更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目	指定管理者 (事業計画, 主な取組, 新たな取組など)	県の評価
<p>施設の効用発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の設置目的に沿った業務実績 ○業務の実施による, 県民サービスの向上 ○業務の実施による, 施設の利用促進 ○施設の維持管理 	<p>点字・録音図書の郵送サービスを継続しながら, 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」の書誌情報の充実とコンテンツ提供体制の整備等を通じ, デイジーオンラインサービスの普及に努めた。</p> <p>利用者個々の情報ニーズに応えるため, ボランティアの協力も得ながら, 対面朗読, プライベート制作, レファレンスサービスの充実を努めた。蔵書の制作の希望など, 貸出窓口の声も踏まえた対応を行った。</p> <p>広島県眼科医会や広島県・広島市の視覚障害者関係施設・団体との連携で開設された「もみじサイト」において, 中途視覚障害当事者とその家族が早期に必要なサービスが利用できるよう, 相談窓口として協力するとともに, 広報・周知に努めた。</p> <p>また, 特別支援学校における読書環境の充実を図るため, 職員を派遣するなど, 情報化の推進等に協力した。</p> <p>新刊図書案内を中心とする利用者向け情報誌「センターだより」を, 点字版, 音声デジー版, カセットテープ版, 拡大字版で約 5,000 部発行し, 内容の充実に努めた。</p> <p>また, 図書の貸出以外にも, 音声ガイド付きDVD映画体験上映会, ピラティスレッスン, 利用者・ボランティア・職員交流会等のイベントを積極的に開催するなど, 利用者間の交流や施設の利用促進に取り組んだ。</p> <p>建物・設備の管理については, 業務委託による実施のほか, 職員による日常巡視点検を実施し, 設備の不備や異常の早期発見に取り組んだ。</p>	<p>情報センターにおいて, 所蔵又は制作した図書の貸出業務のほか, 視覚障害者情報ネットワーク「サピエ」への参画を通じ, 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供に努めている。</p> <p>ボランティアの養成と活動の促進に取り組むとともに, 視覚障害者に対する情報提供の充実を図り, きめ細かなサービスの充実に努めている。</p> <p>関係機関・団体との連携を通じて, 相談体制の強化を図るとともに, 特別支援学校における取組の支援など, 視覚障害者とその家族に対するサービスの向上や支援の充実に取り組んでいる。</p> <p>利用者への積極的な広報や, 様々なイベントの開催を通じて, 施設の利用促進に努めている。</p> <p>限りのある予算の中で, 効率的かつ積極的に修繕を行っている。</p>
<p>管理の人的基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○組織体制の見直し ○効率的な業務運営 ○収支の適正 	<p>更なる運営体制の効率化と適切な施設運営に努めていく。</p> <p>法人の役員, 評議員や多くのボランティア等の支援のもとに, 利用者のサービスの向上と効率的な業務運営に努めている。</p> <p>法人の評議員会, 理事会における審議や, 監事による監査指導を受けるとともに, 会計事務所との連携をとり, 収支の適正化に努めている。</p>	<p>平成 28 年度から臨時職員に代え, 正規職員が配置されたところであるが, 今後とも運営体制の効率化と適切な施設運営の検討が必要である。</p> <p>現行の組織体制の中で, ボランティアの協力を得るなど, 施設の効率的な運営に努めており, 適正な運営がなされている。</p> <p>事業収支については, 概ね計画どおりであり, 適切な運営がなされている。</p>
<p>総括</p>	<p>利用者の意見等を反映した図書の提供や, センター制作雑誌の充実を図るとともに, 点訳・朗読奉仕員の育成指導のもとに, サービスの向上に努め, 地域のボランティアのサポートを実施した。</p> <p>また, 事業収支の計画的な推進を図り, 適切な施設運営に努めた。</p>	<p>従来からのボランティアの育成指導に加え, 音声ガイド付きDVD映画体験上映会等のイベント開催にも積極的に取り組むなど, 視覚障害者福祉に尽力している。</p> <p>また, 事業収支は概ね計画どおりであり, 適切な施設運営がなされている。</p>

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
<p>短期的な対応 (令和2年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療・福祉関係機関との連携を通じて情報センターの認知度の向上を図り、一層の利用拡大に取り組む。 ○ 遠方のため情報センターに足を運ぶことができない地域の視覚障害者のために、点字図書・録音図書・音声パソコンや、最新機器が体験できるように、地域のイベントにも積極的に参加する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関との連携強化や、図書の充実等に引き続き取り組み、利用促進を図る必要がある。 ○ 県内のより多くの視覚障害者に情報センターのサービスが利用されるよう、積極的な広報活動等に取り組んでいく必要がある。
<p>中期的な対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマートフォンやインターネット環境でダイジエー図書を読むことのできるダイジエーオンラインサービスなど、読書環境が進展するとともにニーズも多様化しており、視覚障害者が利用可能な最新機器等に係る情報収集・発信や、職員の支援技術等に係る資質向上に取り組む。 ○ 視覚障害者の図書館利用に係るサービスの充実を図るため、インターネットを利用したサービス提供体制の強化が必要である。 ○ 施設、設備の老朽化に伴い、計画的な修繕や更新が必要となっている。 ○ 公用車が老朽化している。サービスの維持・向上、安全性の観点から、代替が必要である。 ○ 専門的な技術のある人材を育成するため、平成28年度に非正規職員1名の正規化が図られたが、施設長の常勤化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ IT技術の進展や利用者ニーズ等を踏まえ、視覚障害者に対する情報提供や支援の充実を進めていく必要がある。 ○ サービス提供体制の強化に向けて、情報センターにおける機器の更新等を計画的に進めていく必要がある。 ○ 施設、設備の老朽化に対して必要となる整備を、利用状況やニーズ等を踏まえて検討し、利用環境の向上に努めるとともに、適切な保全管理のため、緊急修繕が必要な場合には、早急に対応する。 ○ 公用車の車両や利用状況等を踏まえ、更新計画を検討する必要がある。 ○ 業務量に応じた適切な人員の配置を検討する必要がある。